



Marutomi World



- Home
- 会社案内
- 会社概要
- ご案内
- 製品情報
- 新着情報
- リンク
- E-Mail

マルトミです

12月号 (隔月刊)

この一年の御愛顧
誠に有難うございました。



平成21年ももうすぐ幕を閉じようとしています。皆様にはこの一年、いかがお過ごしになられたでしょうか。

アメリカのサブプライムローン問題から始まった世界同時不況から日本も抜け出せないでいる中、歴史的な政権交代でどう変わるかと思っているところに、今度はまたドバイショックで、本当にいったいどうなるのかと思います。でもそんな中でも私たちの生活は変わらずに営まれています。世界にはそれすらできない国も多いことを思えば、日本はまだ恵まれているのでしょうか。

当社は、こうした厳しい社会環境の中で、皆様の大切な機械を経済的に長くお使いいただけるよう、販売だけではなく、点検・修理・整備の充実にとくに力を注いでおります。どうか今後とも変わらずお引き立ての程、何卒よろしく願い申し上げます。

来る平成22年が皆様にとってより良き年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。

(当社では平成15年より年賀状によるご挨拶を廃止させて頂きました。何卒ご理解を賜りますようお願い致します。)

マルトミカレンダー (12月 ~ 2月) 赤色は休業日

12月							1月							2月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5						1	2		1	2	3	4	5	6
6	7	8	9	10	11	12	3	4	5	6	7	8	9	7	8	9	10	11	12	13
13	14	15	16	17	18	19	10	11	12	13	14	15	16	14	15	16	17	18	19	20
20	21	22	23	24	25	26	17	18	19	20	21	22	23	21	22	23	24	25	26	27
27	28	29	30	31			24	25	26	27	28	29	30	28						
							31													

※ 1日 創立記念日

※ 12/30~1/4 正月休業

◎ 冬季間は降雪の状況により、除雪機の対応のため休日も臨時営業致します(12/31と1/1は除きます)。



新潟県認定農業機械整備工場(大)・ホンダ ベスト特約店

厚生労働大臣認定ヤンマー整備士のいるお店

株式会社 マルトミ



除雪機の安全な使い方

毎年冬になると、各地で除雪機による事故のニュースが伝えられてきます。そんなこともあって、除雪機は怖いものと感じておられる方も多いと存じます。確かに、硬い雪を砕いて遠くに飛ばす強力な機械ですから、使うのに注意が必要なことは言うまでもありませんが、一方で、きちんと使用法を守って作業してもらえれば、これほどらくで・安全で・効率的な除雪方法もありません。

また、最近の機種ではどのメーカーのものでも十分に安全対策が施されているため、普通にご使用いただく限り事故の心配はまずありません。取り扱いもらくで力も要らず、女性でも手軽に安心してお使いいただける機種も多くなっています。

除雪のシーズンを迎え、新しい除雪機でも古い除雪機でも関係なく、これだけは守っていただきたいポイントを3つだけあげておきますので、ぜひご確認をお願い致します。

① ハンドルから離れるときは必ずエンジンを止めること。

基本中の基本です。これさえ守っていただければまず事故は起きず怪我することはありません。

② 除雪機のオーガ一部分(雪を掻き込むところ)やプロア部分(掻き込んだ雪を飛ばすところ)に触れるときは、エンジンが止まっているだけでなく、その部分が完全に止まっていることを確認する。

ふつうはエンジンを止めるとオーガとプロアもすぐに止まりますが、ブレーキの効きが悪くなりしばらく惰性で回っている場合がありますので、一応ご確認下さい。

③ 熱くなっているマフラーに触れないこと

とくに小型の除雪機はエンジンのマフラー(排気筒の部分)がむき出しになっている機種が多く、エンジンを止めた後もしばらくは熱い状態になっていますので、手を触れないようご注意ください。

それから、作業中雪を飛ばす方向に人や車などがいないことを充分確認してください。とくに雪の中に小石などが入っていると遠くに飛んで大変危険です。

※ 除雪機の使用法などでご不明の点があれば、何でもお気軽におたずね下さい。

除雪機の点検・修理はお任せ下さい。

シーズン前の点検も、時期中の修理対応も、除雪機のことなら何でもお任せ下さい。

また部品類も豊富に取り揃え、在庫のない場合でも迅速にお取り寄せ致します。ご注文は、

聞き間違いを防ぐため、できるだけご来店いただくか、FAX、メールでお願い致します。

消火器の安全性と交換時期について

最近、家庭用消火器の爆発事故がニュースで伝えられたことから、家にある古い消火器は大丈夫だろうかというお問い合わせを多くいただきます。結論から言うと、古い消火器でもただ落としたり倒れたりしただけで爆発することはありません。爆発事故は、錆びて腐食した消火器で噴射レバーを握ったときに起こります。

家庭用消火器の交換時期はとくに規則で決められてはいませんが、消火器同業界では安全のため

8年毎の交換をおすすめしています。古い消火器はそのままでは廃棄できませんが、当社では新しい消火器をご購入いただくと古い消火器の廃棄を無料で承っておりますので是非ご相談下さい。



今年の行事を振り返って



今年も、春、夏、秋と3回のイベントを開催し、毎回おおぜいの皆様にご来場いただきました。心から御礼申し上げます。今年のイベントは、

3月 春農機・ミニ耕うん機・草刈機を中心とした展示商談会

7月 恒例のマルチ感謝祭

10月 除雪機・モキの新ストーブを中心とした展示商談会

の3回で、3月と7月のイベントでは、機械の展示販売のほかに、多くの皆様がお店を出した



り、教室を開いたりして会場を盛り上げて下さいました。ご協力いただいたのは食の工房ネットワーク(正善寺工房)・ポニーズ(ポニー牧場)の両NPO法人、荒川さん(山野草販売・園芸教室)・大野さん(メダカ・スズエビなどの水の生き物販売)・和田さん(カブト・クワガタ販売)・大島先生(野菜作り教室)・三条の刃物職人さんたちです。もう何年も続けているので、最近はこちらのお店を楽しみにお出で下さる方も多くなりました。

今後も、ただの展示会ではなく、皆様に楽しんでいただけるイベントとして実施してゆきたいと思いますので、どうかまたご来場下さいますようお願い致します。

西田中公園バタフライガーデンのいまの様子

12月1日、暖かい小春日和となったので、バタフライガーデンの様子を見に行きました。昨年の12月1日も同じ天気で、そのときは公園内にたくさんのヒメアカタテハが飛んでいて驚いたのですが、今回はもう何度かあった雪やみぞれの日に死んでしまったのか、かろうじてキタテハとヒメアカタテハが1頭ずつ見られただけでした。

他になにか生き物がいないかと探していたら、ユズの木に1つだけ隠れるように実が付いていました。写真では見えませんが、よく見ると極小サイズの蚊のような虫が実の表面を忙しげに歩き回っていて、その周りでも何種類かの昆虫が見られました。別に暖冬だからというわけではなく、小さい昆虫には真冬に活動する種類もけっこういるようです。



上越の面白い生き物 60.

夢の亀から悪者へ ミシシッピーアカミミガメ

あまり聞きなれない名前かと思いますが、ペットショップなどで売られているおなじみのミドリガメの正式な名前(標準和名)です。元々は北アメリカからメキシコ北部にかけてすんでいたものですが、ペットとして世界中に輸出され、その後逃げ出したり放されたりしたものが各地で野生化しています。日本でも同様で、今では数が増えて自然の中で唯一ふつうに見られる亀になっています。ただ、その姿はペットショップで見るとはずいぶん違い、色も地味なオリーブ色で、和名の由来になっているほおの赤紋がわずかにその面影を残すのみなので、ちょっとミドリガメとは気づかれないかもしれません。



私は子供の頃から亀が好きで、中学生の頃には、庭に作った囲いのなかでクサガメとイシガメをたくさん飼っていました。イシガメは、当時金谷山に行って田んぼの周りを探せば子ガメがいくつも採れたので身近な存在でした。亀の中で一番好きだったスッポンはその頃は図鑑で見るしかない憧れの存在で、少し後になってから親戚の叔父さんに頼んで東京のスッポン料理店から生きたものを分けてもらったことが懐かしく思い出されます。

そんな私がミドリガメと初めて出会ったのは、かつて上野の不忍池の畔にあった上野水族館の爬虫類コーナーでした。外国のいろんな亀が展示されている中に、鮮やかな緑に黄色の模様、ほおには赤色の紋をもつ小さな亀がいました。まるで作り物のような明るい配色で、亀といえば世界どこでも黒か茶色だと思っていた私にとって、それはまさに衝撃でした。

それ以来、いつかこの亀を飼うことを夢見ながら、そのへんで売られているわけもなく半分諦めていたところに、なんとある菓子メーカーが生きたミドリガメの当たる懸賞を始めたのです。チョコレートの包み紙を集めて送ると抽選で当たるというやつで、たしか“アマゾン”のミドリガメという謳い文句で珍しさを煽っていました。ご想像の通り、私は毎日そのチョコレートを買って、食べて、包み紙を送り続け、結果2匹のミドリガメを手に入れることができました。いまなら動物愛護協会からクリームがつきそうな企画でしたが、私にとっては最高のプレゼントで、それが送られてきた時の感激は今でも忘れられません。

その後ミドリガメはペットとして人気が出てたくさん輸入され、あっという間に野生化して増殖し、いまでは在来の亀を脅かす悪者にされています。でも、改めて言うまでもないことですが、悪いのはミドリガメではなくて私たちです。そして現在、他にも同じような問題が山ほど起きています。

すでに数多くの外来種が入り込んでしまった日本の自然の生態系を元に戻すことは、残念ながら不可能でしょう。でも、それで日本古来の生き物がなくなってもいいわけはありません。トキのように手遅れになってしまう前に、少しでも多くの在来種が消えずにすむように、私たち一人一人ができることもきっとあるはずです。(ミ)